

実態	学力状況		学習・指導の状況		いじめ・不登校の状況				体力の状況			
	各種調査結果	R6年度学力定着状況調査の結果（全国平均正答率を上回った観点） 4年 国語2／5 算数0／5 5年 国語4／5 算数5／5 理科2／5 6年 国語2／2 算数0／2	〇「筋道を立てて考えさせるために」や「達成指標に達したと言える児童の具体的な姿」を出し合い可視化することができた。 〇「考えの言葉」を活用しながら、自分の考えを根拠をもって説明できるよう、指導している。 〇自分の考えと友だちの意見を比べながら言えた児童が増えた。 【2学期児童アンケートより】 〇授業中、めあてをもって学習している（94.5%） 〇授業中、理由をつけて自分の考えを言えた（89.1%） 〇自分の考えと友だちの意見を比べながら言えた（89.1%）	いじめ	認知件数	R4	R5	R6	【生活指導の喫緊の課題】 〇相手の気持ちを思いやる言動ができていない児童が若干名いる。		運動愛好度	R 6全国値以上種目数
						23	11	10			男子100%（5年）	25／48 昨年27
						76%	64%	20%			女子50%（5年）	41／48 昨年38
						2	2	4			【体力／運動の喫緊の課題】 〇体力テストで男子は〈握力・50m走・シャトルラン・立ち幅跳び〉に、女子はややく握力・長座体前屈〉に課題がある。	
						0	0	4				
不登校	復帰率%	0%	0%	50%								

学校の教育目標	重点目標：めざす児童生徒像			達成指標	資質能力	担当	重点的取組		取組指標 誰が・何を・頻度	取組評価	達成状況の確認		考察・改善				
	知識技能	思考判断表現	学び人間性								根拠	評価					
やさしく かしく たくましく	育成を目指す資質・能力	筋道を立てて考え表現する力	知・徳・体でバランスの取れた基礎・基本の習得	しっかり学ぶ子	自分の考えが言える子	考えを深め合える子	何事にも意欲的に取り組む態度の育成	思考・判断・表現	学習部	(知)	授業改善テーマ	取組内容	○教師が1日の授業の中で2回以上【考えの言葉】を意識した活動を設定する。 ○算数の問題解決的な学習において、毎時間自分の考えを全員が発言するような授業を行う。	A	・児童アンケートで「自分の考えを理由つけて言えた」のA評価は43.1%で、達成指標の78.4%。 ・教職員アンケートで「児童は自分の考えを理由をつけて言えた」のA評価は42%で、達成指標の64.6%。	B	3学期は学習の中で理由を言う活動が 少なかったため、「言えた」という達成感が味わえていないと考えられる。自分の発言内容について、より振り返ることができるようになったため、子どもたちの「言えた」かどうかの自己評価が厳しくなったのではないかと考えられる。引き続き、今の取り組みを続けていく。
				使っている言葉	優しい言葉						協力できる子	生活指導部	○人間関係づくりプログラムの実施 ○縦割り班活動・集会（ <u>学年部集会</u> ）の充実				
			使っている言葉	優しい言葉	互いを認め合える子	協力できる子	知識・技能	生活指導部	(徳)	一校一実践テーマ	サーキットトレーニングの充実	○教師が人間の関係づくりプログラムの場で、 <u>「相手の気持ちを考えるスキル」について月1回取り組みを行う。</u> ○教師が相手の気持ちを考えた優しい言動（相手が嬉しくなるような行動や言葉かけ等）ができた児童を評価する声かけを1日に1回以上する。また優しい言動をした児童を評価する場を設ける。（帰りの会等） ○教師が、縦割り班活動や集会活動の中で、優しい言葉で交流する場（話し合いや振り返りの会等）を週1回以上設定する。	A	・児童アンケート「相手の気持ちを思いやる優しい言動ができた」のA評価43.1%で達成指標の107.8% ・教職員アンケート「児童は相手を思いやる優しい言動ができた」のA評価38%で、達成指標の190%	S	どちらも達成指標を上回った。3学期は相手を思いやるスキルに焦点を絞って取り組んだので、どんな時に、どのような言動をすればよいのか児童は理解し、意識して使うことができるようになってきたと考える。 学年部集会は子どもたちが主になって進めることができるようになった。また、内容も広がってきた。	
																	体力をつけようとする子
			杵築市の今日的課題：重点目標 ICTの効果的な活用（頻度）			・児童アンケートで「タブレットを学習に生かした」の <u>A評価の回答を60%以上にする。</u> <u>(2学期A評価52.7%)</u>	○授業中のタブレットの効果的な活用	○教師は授業中に週1回以上【考えの共有】【ふりかえり】等でタブレットを活用する。	A	児童アンケートで「タブレットを学習に生かした」のA評価が54.9%で、達成指標の91.5%。教職員アンケートで「教師は授業中に週1回以上【考えの共有】【ふりかえり】等でタブレットを活用する」の肯定的回答71.4%。	A	達成指標には届かなかったが、2学期のA評価は上回った。ICTの効果的な活用法を教職員同士で共有し、来年にも繋げていきたい。					
			担 当							重点的取組				評価			
家 庭							学習・生活習慣の確立（頑張りカードの推進とメディアコントロール＜スマホ・タブレット等の使用のきまり）の推進				A	メディアに関する課題は多く、来年への引き継ぎとして、子どもへの指導も必要だが、保護者も学ぶ必要があり、そのような場ができたという意見があがった。					
地 域 (学校運営協議会)							環境安全推進部		登校時の安全指導と声かけ運動				S	登校時の安全指導や声かけ運動を行った。			
							学習支援部		地域交流計画の実施と読み聞かせ・ゲストティーチャーなどの学習支援				S	地域交流計画をもとに、もちつき・しいたけのこま打ち体験、読み聞かせ等の活動を行った。			